

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101669		
法人名	有限会社 富永調剤薬局		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	岡山市南区川張1300-1		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101669-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

キッチン是对面キッチンで、リビングが見渡せる様に造られており、常に入居者様とのコミュニケーションがとれる雰囲気となっております。
 入居者様の生活の場であると同時に、一人一人の身体機能や精神面の低下につながらない様、少しでも向上していけるようなケアを進めていきます。
 薬剤指導等に関して、社内の薬剤師が担当する事により施設スタッフ及び協力医との連携が密に図る事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の変更があり、10月から新しくスタートした。調剤薬局と介護事業を手掛け、医療・介護・福祉の幅広い知識と人脈を持ち、管理体制の整った会社と、温かい家庭的な生活の場を提供してきたこれまでの職員との融合で、これからは楽しみな事業所である。職員体制は、変更前から勤めている4人と新たに加わった3人が、お互い協力しながら日々の暮らしの支援に取り組んでいる。これまで通りのアットホームな落ち着いた生活が継続されている。加えて、家族の意向を知る為の顧客満足度のアンケートや、職員の質の向上を目指す委員会や勉強会など頻りに計画され、新しく成長していくステップが整えられている。グループホーム「けやき」の従来の良さを残しつつ、新しい「けやき」に成長していくように、職員全体で力を合わせて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、玄関ホール壁に掲示し、全職員がいつでも目にし、共有出来る様にしている。	社訓は朝礼で唱和し、職員間で共有を図っている。グループホーム独自の理念もあり、「私たちの目と耳は、あなたに、しっかりと向いているかしら」と基本姿勢を確かめながら、日々の暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し事に参加したり、運営推進会議の場で地域の方と交流出来る行事等を一緒に考えたり提案等をしていきたい。	地域のお祭りやクリーン作戦に参加している。ボランティアでハーモニカ演奏に来て下さる地域の方もおられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会、委員会等を設け、そこで分かった事を運営推進会議等で発表し、地域の方々にも理解して頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状報告、勉強会、委員会等で決定した事を伝える等し、参加者の方々から意見を頂きサービス向上に活かす様に努めている。	包括支援センター職員、社労士、家族の参加を得て、26年度は12月と2月に開催した。27年度は、町内会長・民生委員等地域の人達の参加により、地域の理解と支援が得られる会議となるよう計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの方にも参加して頂き、連携が取れる様にしている。	10月から新規の事業所としてスタートするにあたり、市職員から相談・助言をもらい、協働関係を築いてきている。事業所の実情を理解してもらい、情報を共有し、連携できるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、委員会、研修を設け職員全員が身体拘束について正しい理解をし、身体拘束をしなくても良いケアに取り組める様努めている。	毎月開催される委員会のうち、事故対策委員会の中で取り上げ、職員間の意識統一を図っている。月1回の勉強会でも取り上げている。態度や言葉による抑圧にも気を配り、朝礼やミーティング時に職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会、委員会、研修を設け、職員全員正しい理解が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修会に参加したり、専門家の方等に相談させてもらい、施設全体、家族の方々に活用できる様支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書、重要事項説明書を一緒に説明し、ご理解ご納得して頂きサインをして頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、アンケート等を設け、様々な意見を聞ける様にします。また運営推進会議でも、意見交換出来る場を設け、運営に反映していけたらと思います。	行事や運営推進会議への参加をお願いしている。家族の意見や要望を聴き取る為にアンケートを企画している。顧客満足度を計り、今後の課題を見つけ、反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議等を設け、意見交換や提案する事が出来る様努められている。	話し合いの機会が多く、意見は言い易い。業務改善委員会があり、話し合いのもと、改善に向けた取り組みがなされている。個別の面談もあり、各自の課題、目標設定など話し合い、スキルアップにも努め、全体の質の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合い等設け職員一人一人の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作り、職員のスキルアップを計れる様にされ、各自のタイミングで受けれる様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流、施設交流出来る機会を設け、お互いのサービスの質の向上につなげていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご本人様からの要望、意見を聞き、当施設での生活が安心できる様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族と相談させてもらいながらケアプランを作成し、困っている事、不安な事、要望を聞かせてもらいケアに取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の体調管理を行い、必要に応じご本人やご家族と相談させてもらいながら、その都度何が必要であるか見極めケアを考える様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様とのコミュニケーションを大切にし信頼関係を築き、ご利用者様の意見が尊重出来る様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の状況等をご家族に伝え、情報交換を密にとりご家族様の考え等も聞き、一緒にサービス提供出来る様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限等は設けず昔ながらの知人の方や地域の方々との交流が出来る様努めています。	馴染みの美容院やお店に行く等、家族の協力で関係継続できている方もいる。自宅の近所の方が訪ねて来てくれることもある。近くの直売所や公園に度々出かけ、馴染みの場所を作り、地域との繋がりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々がお互い良い関係が保てる様、職員も一緒に会話したりレクリエーションに参加したり、各々支え合える様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、相談等あればいつでも対応させてもらう様伝え、引き続き良い関係でいれる様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意見を尊重し、やりたい事等を一緒に見付け、ご本人様一人では困難な事は、介助や声かけ等行う様にしています。	「あなたの笑顔を見るために、あなたの心を知るために…」と理念に沿った対応を心がけている。レクリエーションや手仕事は、自由に選べられるよう選択肢を用意している。独自の色使いで塗り絵の才能を見せてくれる方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報提供してもらい今後のケアに取り入れていける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理をチェックし、体調の変化にすぐ対応出来る様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、ケアカンファレンス等を設け、職員一人一人が良いケアが出来る様、意見交換を行っている。	介護計画は3~6か月で見直をしている。職員の気付きを書き込むノートや連絡ノートを活用して、ミーティングやケアカンファレンスで話し合った結果をもとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌や申し送りノート等を設け職員全員、情報交換、意見交換が出来る様努め、課題等解決出来る様努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から要望、意見等あれば相談を聞き、ケアプランに取り入れたり、職員全員が問題把握し、良い介護が出来る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の状況にあった地域資源を考え、ご本人様に合った交流が出来る様、関係者の方々と情報交換等をして、楽しめる様努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じ、ご本人様・ご家族様の要望を聞かせてもらい、かかりつけ医等あればそこへ受診出来る様連絡し、付き添い支援を行っています。	月2回提携医の往診がある。かかりつけ医の受診にも職員が付き添い、普段の様子や変化を伝えるようにし、本人や家族の希望する医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は在職していませんが、職員全員、日々の体調管理を大切に、異状、変更等あれば、協力医に相談する等、支援出来る様努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、速やかに対応出来る様、病院関係者と連絡を取り合い、情報交換、相談出来る様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化・終末期に向けた方針を説明し、家族の意向を聞いている。今後同意書を作成し、サインを頂く様努めていきたい。	医師、家族、職員と話し合いを重ねながら、本人や家族の意向に添った支援をしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会・研修会等を設け、対応出来る様努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を行い、また災害対策について勉強会や研修会を開催し、災害時に対応出来る様努めています。	11月に防火訓練、避難訓練を行っている。玄関外までの移動を検討し、実施している。防火、防災対策の予備知識の研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、尊敬の念を持ち、ご利用者様一人一人に合った声かけが出来る様努めています。	居室は鍵がかけられるようになっていて、職員と一対一でゆっくりと話す時などに使用している。一人ひとりの権利を保障し、人格を尊重する言葉かけができるように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意志、要望を尊重出来る様支援を行っているが、全ての事に対し完璧には出来ていない為、今後は出来る様努めたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の意見・要望を聞き、各々の生活習慣に合った時間の使い方が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の要望を聞き、身だしなみ、おしゃれが出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等を一緒にして頂き、食への楽しみを持って頂ける様努めている。また季節に合った食事も提供出来る様努めています。	盛り付けやお盆拭き等、できる事は手伝ってもらっている。業者の食材を利用しているが、メニューの少ない日には、手作りの料理も加えるようにしている。	業者のメニューは単調になりがちで、時々利用者の希望する食事が食べられるような方法を検討して頂きたい。自立支援の視点からも、意欲を引き出し、食事が楽しみなものとなる様な取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量、水分量を提供出来る様努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の方に定期的に訪問して頂き、一人一人の口腔状態に合ったケアの仕方を聞き、各々に合った支援が出来る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に合った支援が出来る様努めている。一人では意思が伝える事が出来ない方へは定期的に声かけ等し支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りで、トイレでの排泄や自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間にポータブルトイレを使用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者各々の排便チェックを行い、水分量や運動、マッサージ等工夫し、また医師と相談し服薬等も考え、個々に応じた予防支援が出来る様努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調を見ながら介助する様にはしているが、現在ご利用者様の希望・タイミングに合わせて入浴介助は行えていないので、今後はご利用者様本意のタイミングで介助出来る様支援していきたい。	本人の意向を確かめながら、入浴の声かけをしている。時間をずらしたり、翌日に入浴して頂いたり、できるだけ希望に添った入浴ができる様に対応している。毎日入浴を楽しむこともできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人の生活習慣その時の状況に応じ、介助や声かけを行う様努め、安心して気持ちよく眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者様一人一人の日々の健康管理を行い、各々の使用している薬の目的、副作用等を薬剤師等に聞き、服薬支援や症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人に合った楽しみを見付け、日々楽しく快適に過ごせる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調面に配慮しながら、天気が良く暖かい日には、散歩やドライブに出かけたり、春や秋には遠足を計画し、普段では味わえない楽しみが提供出来る様努めています。	近くにファーマーズマーケットや公園があり、よく出かけている。気分転換となり、利用者はお出かけを楽しみにしてる。一人ひとりの意欲や自立を保つための外出支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々のお金の管理は事務所金庫にて職員が行い、外出時買い物に出かけた際には、職員と一緒に支払い等して頂き、ご利用者一人一人に合った管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の意思を尊重し、電話・手紙の制限は設けず、その都度要望があれば、行える様努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が快適に過ごせる様、温度管理を行ったり、電気を明る過ぎない温もりのあるライトを使用している。また、外から太陽の光を取り入れられる様、天窓を付け自然の明りも使っている。	天窓からの採光で、明るく開放的な共用空間になっている。壁には利用者の作品が貼ってあり、家庭的な雰囲気の中で、お互いの成果を楽しむことができる。パズルや毛糸等自由に選び、思い思いにゆっくりと過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、外や中庭が眺める事が出来る場所に、小さい机、イスを設置し、独りになりたい時や、少人数で会話がしたい時等に使用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご本人様やご家族と相談し、使い慣れたもの、好みの物を持って来て頂く様声かけをし、入所後快適に過ごして頂ける様努めています。	居室ドアの横には、住所、名前の入った表札がかけられ、自分の家という実感が感じられる。ベッドやタンスは一人ひとりの身体状況や動線を考慮して配置しており、安全で快適な居室となっている。鏡台等使い慣れた家具が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な物は置かず、一般的な家具等を使用。また廊下には手すり、壁の角にはクッション性のある物を取り付けて、安全に生活出来る様努めています。		